泥団子から泥玉へ

～土と左官の魅力を伝える～

八代研究室

00312015　北川原 良太

1. はじめに

本制作は、ものつくり大学で学んだ左官技術を基に、二年間取り組んだ光る泥団子の技術の集大成であり、完成した作品は愛知県常滑市にある INAX ライブミュージアム館内『土・どろんこ館』に常設展示されている。

２．制作コンセプト

展示物への要求は、「施設のひとつの売りになるもの、常滑・INAX を象徴するもの」であった。そこで関係者と打ち合わせをした結果、通常の大きさ(直径約５cm)ではなく、できる限り大きなものを作ることになった。さらに常滑・INAX を象徴するものの要素として常滑の文化であり、INAX の原点でもある陶芸に着目した。

陶芸の要素を取り入れるにあたり、まず考えたのは泥団子の芯である。泥団子の芯は通常、土・砂・藁を混ぜ合わせた材料で作る。しかし、泥団子が大きくなれば重量の増加が問題になるため、軽量化する必要がある。もともと私の泥団子は土壁を造る技術の応用なので、大きくする際には中に発泡スチロールなどの軽い材料で作った芯を入れるか、竹や鉄筋で球体の骨組みを作り、土を塗りつける方法を考えていたのだが、常滑には「よりこ作り」という手法による大物焼きの文化があり、過去には２ｍを超える甕などが作られていたという。そこで、芯には焼き物を利用することにし、地元陶芸家の方に制作していただいた。

次に考えたのは仕上げに使う色土で、常滑のローカルカラーとも呼べる薄い黄色と朱色を使うことにした。薄い黄色は田土を主とした混合土を使用した。田土は、常滑の田畑の土なのでローカルカラーに相応しかった。朱色は昔から常滑で急須などに使われていた、だが現在では非常に貴重なため、今回は白い土をベンガラで着色した土(朱泥)を使用した。この二種類の色土で、土と炎の出会う町・常滑、INAX を象徴する光る泥団子を作ることにした。

３．泥玉の制作過程

右頁に詳述したように、泥玉の制作過程は大きく分けて、（１）下地（２）仕上げ（３）展示の３工程に分かれる。制作だけならば（１）（２）のみであるが、本制作では（３）までが重要となる。

実際に作業した期間は一週間程度であるが、そこに至るまでに実験や試作、デザインの検討に二ヶ月を要した。また完成後の展示に関しても、場所や照明などさまざまな事柄を考慮する必要があった。

完成した直径約 54cm・重量約 40kg の光る泥団子は、中日新聞社記者の中山氏によって「泥玉」という作品名が付けられ、2006 年 10 月 24 日および 11 月 18 日付けの朝刊で報じていただいた。

４．まとめ

私は本制作を行うことで、本当の意味で一からものをつくるということを経験し、下地となるような完成後には隠れてしまう部分の精度の重要性を感じ、その丁寧な作業の繰り返しが本当に良いものを作り出すということを感じた。

【謝辞】
本制作を行うにあたりご指導いただいた榎本新吉氏、三木きよ子さんご協力いただいた㈱INAX 様、一菁陶園様をはじめとした多くの関係者の皆様に、ここに記して御礼を申し上げたい。

【参考文献】
『土と左官の本３』別冊 CONFORT：建築資料研究社　2005.5
久住章著『壁の遊び人＝左官・久住章の仕事』：世織書房　2004.12

---

the Fascination of Soil

Ryota KITAGAWARA

泥玉の制作過程

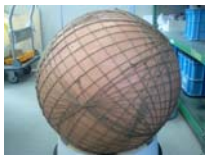
2006 年 11 月
INAX ライブミュージアム館内
『土・どろんこ館』

（１）下地

1-1　06/10/17
地元陶芸家による,下地制作.
(よりこ造り)

1-2　06/10/21
ゲージを当てて半球を作る.これを二つ作り,合わせて球体にする.

1-3　06/11/4
窯入れ（電気窯）
800℃で焼成後,3 日間かけて冷ます.



1-4　06/11/8
付着力向上のための麻紐を 30 ㎜程度の方眼になるように巻いた.

1-5　06/11/9
土・砂・藁を混ぜた材料を手で塗りつけ,乾燥機に入れ完全乾燥させる.

1-6　06/11/9
次層の付着力向上のために,霧吹きで水分を与える.

1-7　06/11/10
ゲージを使い,土の塗りつけと乾燥を繰り返す.
凹凸の無い球体にする.

1-8　06/11/11
土の下塗り終了
完全に乾燥させる.

（２）仕上げ

2-1　06/11/12
砂漆喰の塗付け
ゴムベラで塗りつけた後に,ゲージで整える.

2-2　06/11/12
田土と石灰クリームを混ぜたノロの塗付け.
配合比＝１：１

2-3　06/11/12
朱泥と石灰クリームを混ぜたノロの塗付け.
配合比＝１：１

2-4　06/11/12
材料がべたつかない程度に乾くまで水の引きを待つ.

2-5　06/11/12
乾燥硬化遅延のためにオリーブオイルを塗付ける.色の深みを増す効果もある.

2-6　06/11/12
ガラスのビンによる押さえ作業
鈍く光るまで,軽く当てる程度に押さえた.

2-7　06/11/12
素手による磨き
オイルの引きに合わせて磨く力を強くする.

2-8　06/11/12
ウエスによる磨き上げ
一晩乾燥硬化を待ち,反転させ裏面を仕上げる.

（３）展示

3-1　06/11/15
直径約 54cm・重量約 40kg の泥玉が完成した.

3-2　06/11/15
展示場所への移動と固定.

3-3　06/11/15
照明の調節
自然光とライトの両方を考慮した.

完成図　06/11/16